

平成26年度 第2回
要請訪問要項



平成26年9月10日(水)

小松市立松陽中学校

目 次

◇日程等・・・・・・・・・・・・ p 1

◇研究の概要・・・・・・・・・・・・ p 2～7

◇研究構想図・・・・・・・・・・・・ p 8

＝ 学習指導案 ＝

◇2年3, 4組 (数学)・・・・・・・・ p 9～18

◇3年3組 (道徳)・・・・・・・・・・・・ p 19～20

◇あすなろ (生活単元)・・・・・・・・ p 21～23

◇メモ・・・・・・・・・・・・・・ p 24

《日 程》

11:10～11:30	諸帳簿閲覧
11:40～12:30	1次懇談
12:30～13:20	給食・休憩
13:25～14:15	研究授業 ※研究授業の学級以外は、終礼後速やかに下校。
14:20～14:30	終礼
14:40～15:30	授業整理会
15:40～16:10	全体会
16:15	2次懇談

《5限研究授業》

13:25～14:15 (50分)

【参観のポイント】

※人権教育の視点に立った授業となりえていたか。

※特に他教科の方は、学ぶ側の生徒の立場での参観ができるとうい。

《授業整理会》

14:40～15:15 (35分)	ワークショップ型授業整理会
15:15～15:30 (15分)	まとめ(指導主事)

《全体会》

15:40～16:10 (30分)

- 来校者の紹介
- 授業整理会の報告
- 指導・助言
- 学校長挨拶

《来校者》

小松教育事務所

多保田 好浩	主任管理主事
北 千鶴	指導主事
櫻田 孝子	指導主事
中西 嘉久	指導主事
亀田 香利	指導主事

小松市教育委員会

波佐尾 雅人	学校教育課長
吉田 明生	担当課長
中川 千英	教育センター所長
二口 英一郎	指導主事
東口 幸央	指導主事
高田 幸代	指導主事
新名 孝	指導主事

《研究授業・授業整理会参加者》

教科	学年・組	授業者	授業場所	担当指導主事	参観者(整理会参加者)	整理会場
数 学	2年3組 2年4組	樋田 川端 杉元	2年3組 2年4組 2年5組	中西指導主事 東口指導主事	教頭・大島・平・福井・元田 登美・安部・ 任田 ・山本・中谷	2年5組 教室
道 徳	3年3組	中村	3年3組 教室	亀田指導主事 高田指導主事	横山 ・金子・木下・坂口・小川 朝日・高原・番場・紺谷・石橋	3年3組 教室
生 活 単 元	あすなろ	森口	あすなろ2	櫻田指導主事 新名指導主事	松田・黒田き・本田・谷川・ 小坂 石田・高木・福田・黒田し・糠山	2年2組 教室

※□は進行役

【研究の概要】

1. 研究主題

心豊かで文武両道を目指す生徒の育成

～確かな学力と豊かな人間関係の構築を目指した人権教育の推進

2. 主題設定の理由

本校は長らく道徳教育を核とした「心の教育」を基盤に、学校研究に取り組んできた。平成16年度からは、「心豊かで文武両道を目指す生徒の育成」を研究主題に、学力向上も視野に入れた取り組みを進めてきた。そして、平成22年度からは「主体的に学ぶ姿勢を育み、学びを活かす力の向上を目指して」を研究の副題として、「生徒の心を育てる取組」と「生徒の学ぶ力を育てる取組」の2点を柱に取組を進めてきている。

しかし、学期毎に実施している「いじめアンケート」では「いじめられている(いた)」という回答が数件見受けられたり、生徒たちが交わす言葉の中に差別的な言動が少なからず見受けられるという実態があった。

また、自分の思いを言葉や文章で表現することに苦手意識を持つ生徒も多く、時としてそれらが原因で人間関係のトラブルが発生することもあった。

これらの実態を踏まえ、昨年度は従来の取組に「集団づくり」と「自尊感情の育成」を加え、研究を進めてきた。その結果、昨年11月に行ったQ-Uアンケートの結果からは、どの学年においても学級への所属意識の高まりが見られ、個々の生徒にとって、居場所のある集団が築かれつつあることがうかがえた。

しかし、半数の生徒が「もっと自分に自信を持ちたい」と考えており、自尊感情の育成という面では依然として課題が残っている。

以上から自尊感情の育成を目指した取組を一層進め、豊かな人間関係を築くことができる集団づくりを進めるため、上記の主題を設定した。

3. 目指す生徒像とつけさせたい力

本校が目指す生徒像について、学校管理運営計画には次のように記されている。

「自主」・・・自ら進んで行動する生徒
「自立」・・・自分の言動に責任を持つ生徒
「奉仕」・・・思いやりの心で皆のために尽くす生徒

これを基に、本校の研究主題に迫るため、生徒につけさせたい力を以下のように設定した。

・将来への展望を持ち、意欲的・主体的に学習に取り組む力
・自己を肯定的にとらえ、自らに責任をもって行動する力
・互いの違いを認め、尊重し合い、仲間のために行動できる力

4. 研究仮説

「自分はかけがえのない存在である」という自尊感情を育むとともに、学び合いを通して個々の生徒のコミュニケーション能力を高めることで、互いを認め合い、尊重し合うことができる豊かな人間関係を築くことができるであろう。

5. 研究の4つの柱と内容

(1) 全ての生徒に学力を保証する取組

①教科の授業改善の取組

全教科共通の視点で授業改善に取り組む。⇒「松陽スタンダード」(授業モデル)の確立

- 【視点A】 意欲的に学習に取り組むための工夫(基礎・基本の定着も含む)
- 【視点B】 思考力、判断力、表現力を育てるための言語活動や学習形態、学習課題の工夫

②授業研究の充実

指導案検討、模擬授業、授業整理会に、ワークショップ型の活動を導入することで、研修会の活性化を目指す。また、授業の相互参観の機会(授業交流週間)を設け、授業改善の一助とする。

③授業改善の取組の評価

授業改善の取組を検証するため、各学期毎に授業アンケートを実施し、結果をフィードバックする。

④「羅針盤」の作成と活用

ア「本誌」のページ

年度当初、新入生に配布し3年生まで保管する。中学校の学習に関する資料として、年度当初の学活等で活用する。2、3年生は自分の学習法の見直しの資料とする。

イ「教科」のページ

年度当初の教科部会で見直しを行い、各教科の最初の授業で配布する。各教科でつけてほしい力や年間の学習の目安を確認する。各学年ごとに作成する。

⑤読書活動の推進

ア朝読書

1、2年生は毎日取り組むことを原則とし、火曜日は3年生も含めて全学年で朝読書に取り組む。

イ図書館運営の活性化

図書便りの発行や、図書委員会の活動を組織することで、魅力ある図書館運営を工夫する。

(2) 自尊感情に基づく豊かな心の育成

①人権教育の視点を取り入れた授業づくり

生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を視点とした授業を工夫する。

自己決定	自己存在感	共感的人間関係
(例) ・指示するのではなく、自分で決めさせる。 ・判断に悩んでいる場合は、選択肢を与えたり、教師の思いを伝える。 ・生徒自身がよりよき言動に気づき、修正を促すメッセージを伝える。	(例) ・生徒が話しかけてきた時は、手を止めて最後まで話を聞くように心がける。 ・一人一人のよい言動を見逃さず褒める。 ・個に応じた活躍の場や責任を負う場を与える。	(例) ・級友の話を肯定的に聞くスキルを全ての活動で育む。 ・いろいろな価値観にふれさせ、互いを認め合える活動を取り入れる。 ・思いやりに欠ける言動は見逃さず、すぐに考えさせる。

②生徒の自尊感情の育成

「自分は大事にされている」「自分はかけがえのない存在である」と生徒が実感できるような声かけや働きかけを、授業のみならず、日常の学校生活の中で心がける。また、道徳や特活を中心に、生徒の自尊感情を育むことを意図した取組を行う。

③道徳教育の充実と授業力の向上

ア研究授業の実施

資料の選定、資料分析表の作成から、授業につなげる学年単位の取り組みを継続する。その際、授業を工夫するための「共通の視点」を、心の教育推進部会が中心となって設定し、各学年の研究協議に臨むことで、授業力向上につなげる。

イ生徒の変容や成長、感想等の返し方の工夫。

道徳実施後の生徒の変容や成長、感想を学級や学年で共有できる工夫をし、より生徒の心に響くものとなるよう心がける。

ウ授業交流の活性化

日常の授業の相互参観や、資料・指導案の交流を進める。また、担任以外の教師をゲストとした道徳授業の取組を継続し、充実させる。より多くの先生方から学ぶ機会となるよう級外だけでなく、担任も他のクラスのゲストティーチャーになること等も考えられる。

エ年間計画および授業記録の活用

年間計画を利用した道徳の計画的実施により、他の教育活動との関連づけを図る。また、生徒の実態や活動にあわせて他の資料を利用した場合にも、記録をしっかりととり、年間計画の見直しや他学級・他学年での実践に活かす。道徳担当者で連絡を取り合い、進めていく。

④人権教育の推進

ア人権意識調査

生徒や教職員の人権意識に関するアンケート調査を行い、意識の変容をつかむとともに、人権教育に取り組む際の資料とする。

イ人権作文

人権作文に全校で取り組むことで、自らの日常生活を振り返る機会とする。また、作文で明らかになった人権課題を生徒に返す取組を工夫する。

ウ人権週間

人権週間に合わせて、人権教育講演会や人権をテーマにした授業に取り組む。また、生徒会による活動なども企画する。

エ図書館の活用

図書室に人権コーナーを設け、人権に関する書籍を紹介するなど、積極的に情報を発信する。

⑤校内研修の活性化

人権教育を中心に様々なテーマで校内研修を行い、教師力の向上を図る。

(3) 集団づくりによる豊かな人間関係の構築

①学年経営、学級経営の工夫

構成的グループエンカウンターを取り入れた活動等を通じて、互いを認め合うことが出来る集団を目指す。また、Q-Uアンケートを実施し、その結果を学級経営や学年経営の資料として活用する。

②学校行事や学年行事、部活動の活用

運動会や文化祭、修学旅行やバス旅行等の学校や学年での行事、さらには部活動など様々な生徒の活動を、集団づくりの絶好の機会として活用し、豊かな人間関係を築く取組を工夫する。

③生徒会活動やリーダー会活動の活性化

生徒会活動や、各学年リーダー会の活動を活性化することで、生徒の自主的、自立的精神を育む。集団づくりをテーマに校内研修を行い、教師力の向上を図る。

(4) アンケートによる検証と情報の発信

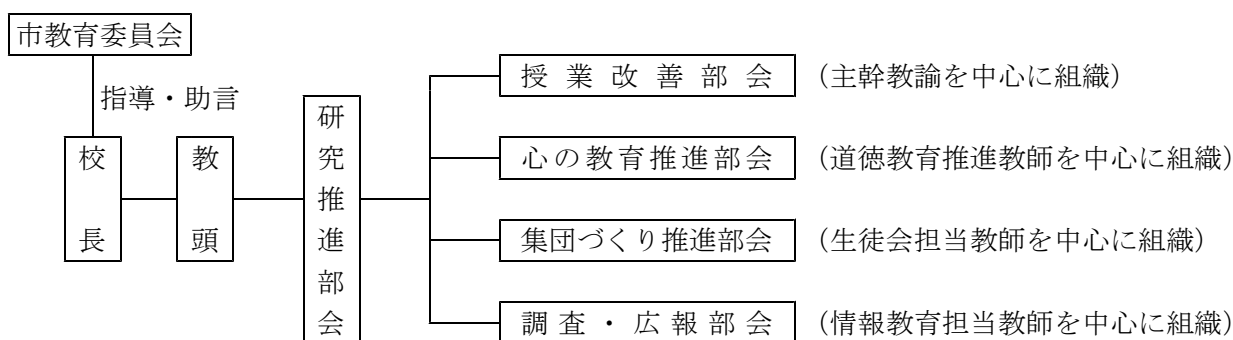
①各種アンケートの集計および分析

前述した授業アンケートや人権意識調査等の各種アンケートの結果を集計、分析することで、生徒の変容を把握し、その後の取組の資料とする。

②情報の発信

学校のホームページを利用して、保護者や地域に本校の活動を積極的に発信していく。

6. 研究組織



7. 一学期の取組

(1) 研究各部会の取組

①授業改善部会

- ・「授業にのぞむ『進取』の心構え」を作成することで、授業規律や授業で大切にしたいことを共有する。
- ・「松陽中学校『学び』のスタイル（松陽スタイル）」を作成、教室に掲示するとともに、授業の初めに「本時のめあて」を明示することで、生徒に授業のイメージを共有させる。
- ・教師も生徒も、自分の授業や学びを振り返る自己点検を月末毎に行う。

②心の教育推進部会

- ・道徳資料の紹介や準備をする。
- ・クリアファイルを用いて、生徒の感想を掲示することで感想の交流を行う。
- ・同一資料を用いての資料分析や発問を持ち寄り、効果的な授業の展開を考える校内研修の実施。

③集団づくり推進部会

- ・生徒が「一体感」を感じられるような取組の工夫を生徒会や、学年リーダー会が中心となって行う。

- ・「いじめを考える集会」を開き、各学級で「いじめをなくすために心がけること」を一つ決め、生徒会執行部で集約し、「18条のいじめ0憲法」を作成、集会で発表する。

④調査・広報部会

- ・授業アンケート、人権意識調査等のアンケートの集計
- ・研究の取り組みをHPで公開

(2) 校内研修会

回数	開催日	内容
第1回	4月 4日(金)	・年度当初の学級経営について(坂口)
第2回	15日(火)	・学校研究の基本方針について(坂口)
第3回	5月 8日(木)	・人権教育学習会(園田雅春 大阪成蹊大学教育学部教授)
第4回	26日(月)	・指導案の様式について(坂口)、指導案検討会(各教科部会)
第5回	6月 2日(月)	・模擬授業とワークショップ型授業整理会
第6回	12日(木)	・第1回要請訪問(社会・理科・保体・学活)
第7回	7月 9日(水)	・生徒との向き合い方(山本敦子スクールカウンセラー)
第8回	11日(金)	・生徒指導(高塚指導主事)
第9回	30日(水)	・いじめ対応(村田時也SSW)
第10回	8月 8日(金)	・道徳の授業づくり(心の教育推進部会)
第11回	27日(水)	・模擬授業とワークショップ型授業整理会

(3) 各種アンケート調査

①人権意識調査

小松市立松陽中学校
人権意識調査
 松陽中学校では、生徒のみなさん一人ひとりが、何の心配もなく笑顔で過ごすことのできる学校づくりを目指しています。その一環として、アンケートにご協力をお願いします。以下の質問に対し、回答用紙の当てはまる番号をきれいに塗りつぶしてください。

① **人権をめぐる考え方について**
 次の①～⑦について、あなたの考えに近いものを選んでください。

① 思いやりやさしさをみんなが持てば人権問題は解決する。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

② 人間の社会には、差別はつきものだ
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

③ 人権や権利ばかり主張して、がんばることができない人が多い
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

④ 人権問題について、みんな自分の権利をもっと学ぶ機会をもつべきだ。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑤ きまじまな人権問題とは、自分は関係がない。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑥ 人権問題についての学習は、小学校や中学校でしっかりと行うべきだ。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑦ 高校では他の勉強もあるので、人権問題についての学習は必要ない。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

② **人権問題の認知度について**
 日本の世の中に、次の問題はどれくらいあると思いますか。

① 部落差別の問題
 1 かなりある 2 ある 3 ほとんどない 4 ない 5 この差別がわからない

② 在日外国人(日本で暮らしている外国人)に対する差別の問題
 1 かなりある 2 ある 3 ほとんどない 4 ない 5 この差別がわからない

③ 障がい者の方々に対する差別の問題
 1 かなりある 2 ある 3 ほとんどない 4 ない 5 この差別がわからない

③ **人権問題についての認知時期について**
 初めて、次の問題について知ったのはいつですか。

① 部落差別の問題
 1 中学校入学後 2 小学校高学年 3 小学校中学年 4 小学校低学年 5 知らない

② 在日外国人(日本で暮らしている外国人)に対する差別の問題
 1 中学校入学後 2 小学校高学年 3 小学校中学年 4 小学校低学年 5 知らない

③ 障がい者の方々に対する差別の問題
 1 中学校入学後 2 小学校高学年 3 小学校中学年 4 小学校低学年 5 知らない

④ **人権問題の認知方法について**
 次の問題についてどのように知りましたか

① 部落差別の問題
 1 学校などの先生 2 親・兄弟などの家族 3 友人 4 近所や地域などの人 5 TVや新聞 6 知らない

② 在日外国人(日本で暮らしている外国人)に対する差別の問題
 1 学校などの先生 2 親・兄弟などの家族 3 友人 4 近所や地域などの人 5 TVや新聞 6 知らない

③ 障がい者の方々に対する差別の問題
 1 学校などの先生 2 親・兄弟などの家族 3 友人 4 近所や地域などの人 5 TVや新聞 6 知らない

⑤ **自尊感情について**
 次の項目について、一番近いものを選んでください。

① 自分は、少なくとも人並みには、価値のある人間である。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

② 自分は、いろいろなよい素質を持っている。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

③ 自分は教員や先生と話すことができる。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

④ 自分は、物事を人並みには、うまくやれる。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑤ 自分には、自信ができる場所がある。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑥ 自分に対して前向きに考え行動する。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑦ だいたいにおいて、自分に満足している。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑧ もっと自分自身に尊敬できるようになりたい。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑨ 自分は全くだめな人間だと思うことがある。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

⑩ 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う。
 1 そう思う 2 どちらともいえない 3 そう思わない

ありがとうございました。

◇集計結果より

- ・半数以上の生徒が、人権に関する知識を身につけるべきと考えている。(1-問4)
- ・半数以上の生徒が、人権問題を自分たちの問題として認識している。(1-問5)
- ・6割を超える生徒が、義務教育における人権教育の必要性を感じている。(1-問6)
- ・様々な差別の実態に関する認識や知識は全体的に弱い。(2、3、4の全問)



「人権に関する知的理解」、「人権感覚」を身につける取組を進める必要性

そのためには・・・

教科、道徳、学活、総合的な学習の時間等、あらゆる機会を利用して、人権教育に取り組むのだという意識と不断の努力が必要となる。

- ・自分によいところを見いだせない(自尊心が低い)生徒が比較的多い。(5の全問)
- ・自分に自信を持ちたいと感じている生徒が多い。(5-問8)



「自尊心」を育てる取組の一層の工夫の必要性

(例)

- ・学校生活の様々な場面で、生徒に「できた」という成功体験を味わわせる。
- ・「〇〇さん、がんばっているね」など、生徒の活動を認める声かけを全職員が意識的に行う。
- ・「おまえら」や「～しろ」などの、生徒が「上から目線」を感じるような言動を避ける。

②授業アンケート

学年 クラス	①②③ ④⑤⑥⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	—あてはまる学年とクラスの 番号を丁寧にぬりつぶして ください。	授業アンケート					1 2 3 4					
			国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	音 楽	美 術	保 体	技 術	家 科	
			～8の内容にあてはまる教科の番号をぬりつぶしましょう。 ※複数回答可										
			1. 落ち着いた雰囲気ですべて学習に取り組めた。	①	②	③	④	⑤	1. 落ち着いた雰囲気ですべて学習に取り組めた。	①	②	③	④
			2. 期日を守って課題や作品などの提出ができた。	①	②	③	④	⑤	2. 期日を守って課題や作品などの提出ができた。	①	②	③	④
			3. 授業では課題について調べたり、考えたりする時間が確保されていた。	①	②	③	④	⑤	3. 授業では課題について調べたり、考えたりする時間が確保されていた。	①	②	③	④
			4. 授業では調べたことや、練習したことを発表する機会があった。	①	②	③	④	⑤	4. 授業では調べたことや、練習したことを発表する機会があった。	①	②	③	④
			5. 授業のめあてが示され、わかりやすい授業だった。	①	②	③	④	⑤	5. 授業のめあてが示され、わかりやすい授業だった。	①	②	③	④
			6. 先生から発言やがんばりを認めてもらえる声かけがあった。	①	②	③	④	⑤	6. 先生から発言やがんばりを認めてもらえる声かけがあった。	①	②	③	④
			7. グループ活動や相互評価など、級友と協力しあう活動があった。	①	②	③	④	⑤	7. グループ活動や相互評価など、級友と協力しあう活動があった。	①	②	③	④
			8. 間違いや失敗を笑われないという安心感が教室にあった。	①	②	③	④	⑤	8. 間違いや失敗を笑われないという安心感が教室にあった。	①	②	③	④

◇2学期の授業に向けての課題(集計結果より)

- ・授業規律の確立
- ・授業の「めあて」と「振り返り」の確保
- ・生徒が「頑張りを認めてもらえた」と感じる声かけの工夫 ※個別に声をかける工夫
- ・生徒が互いに「学び合う」場の設定
- ・安心して発言や発表ができる雰囲気づくり

学校教育目標・研究主題

心豊かで文武両道を目指す生徒の育成

校 訓	自主	— 自ら進んで行動する生徒
	自立	— 自分の言動に責任を持つ生徒
	奉仕	— 思いやりの心で皆のために尽くす生徒

研究副題

確かな学力と豊かな人間関係の構築を目指した人権教育の推進

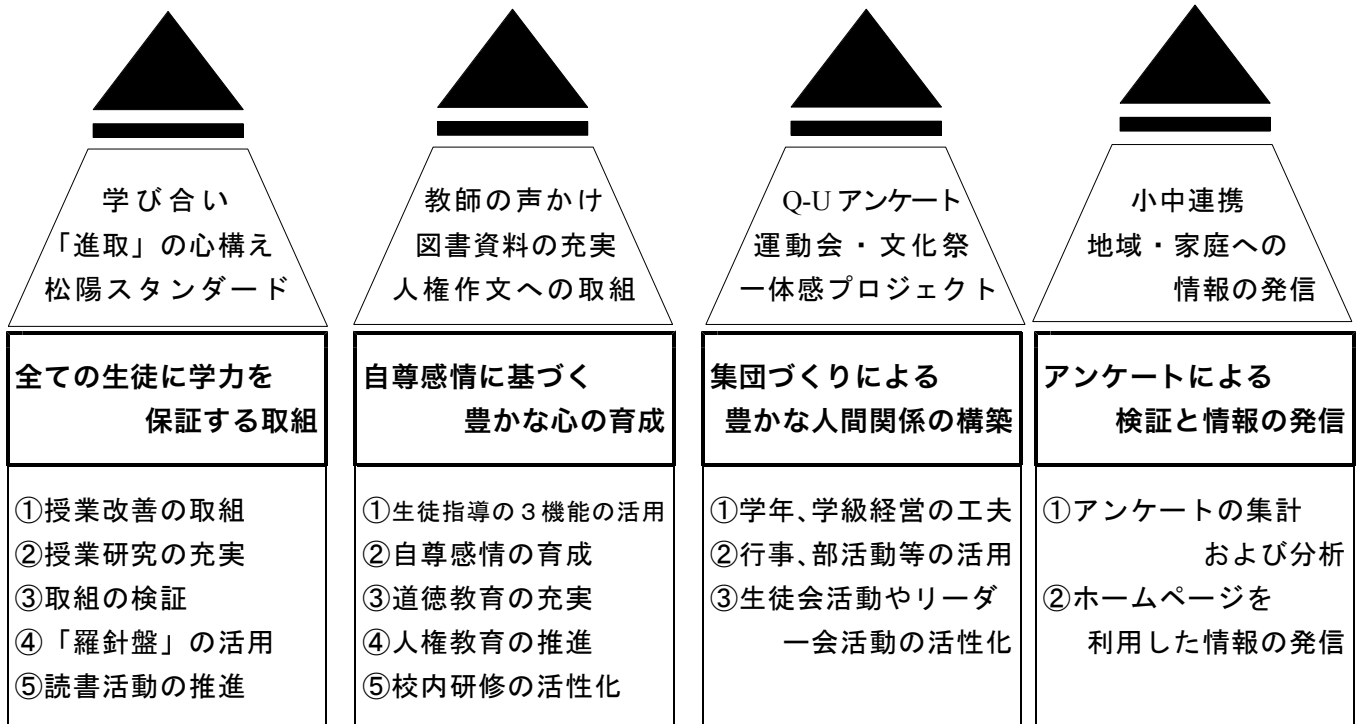
《育てたい力》

- ・ 将来への展望を持ち、意欲的・主体的に学習に取り組む力
- ・ 自己を肯定的にとらえ、自らに責任を持って行動する力
- ・ 互いの違いを認め尊重し合い、仲間のために行動できる力



研究仮説

「自分しかかけがえのない存在である」という自尊感情を育むとともに、学び合いを通して個々の生徒のコミュニケーション能力を高めることで、互いを認め合い、尊重し合うことができる豊かな人間関係を築くことができるであろう。



5 限 研究授業

學習指導案

第2学年3・4組 数学科学習指導案 (習熟度別少人数)

日 時 平成26年9月10日

指導場所 2年3組教室 [3組標準・基礎コース]

2年4組教室 [発展コース]

2年5組教室 [4組標準・基礎コース]

指 導 者 樋田 隆子 [3組標準・基礎コース]

川端 明美 [発展コース]

杉元 裕貴 [4組標準・基礎コース]

1. 単元(題材)名 1次関数

2. 単元(題材)の目標

- ・1次関数の関係に関心を持ち、具体的な事象の考察に、関数の見方や考え方を利用しようとしている。

【数学への関心・意欲・態度】

- ・具体的な事象のなかから、1次関数の関係にある2つの数量を見いだすことができる。【数学的な見方や考え方】

- ・1次関数である事象の考察に、表・式・グラフを用いて、表現したり、処理したりすることができる。

【数学的な技能】

- ・1次関数の意味や変化の割合、グラフに関わる用語などを理解している。

【数量や図形などについての知識・理解】

3. 研究主題との関連 (人権教育の視点)

育てたい力

- ①将来への展望を持ち、意欲的・主体的に学習に取り組む力
- ②自己を肯定的にとらえ、自らに責任を持って行動する力
- ③互いの違いを認め、尊重し合い、仲間のために行動できる力

1次関数の見方・考え方は、身のまわりの事象の課題解決に有効な学習内容である。その学習内容を活用して、事象の課題解決を図ろうとする意欲や姿勢は、①の将来を見通し、課題解決に意欲的に取り組む力をつけることにつながると考える。

4. 指導にあたって

(1) 生徒の実態

1次関数の準備として、1年次に学習した比例・反比例の内容を確認する簡単なプリントをしたところ、式を作ることと比例のグラフを正確に書くことが不十分であることがわかった。この1次関数の学習内容で、スパイラルに内容を深めつつも復習しながら学習することはできるので、比例と比較しながら進めていきたい。

標準・基礎コースの生徒たちは関数の復習から始めた。導入では方程式との混乱を解消するために変数と定数の違いと独立変数 x と従属変数 y の役割の違いを確認した。一日の昼と夜の関係を例にとり「24から x をひくと y になる」という働きを $y = -x + 24$ と表現するルールを確認した。生徒たちはこの後注水・排水の式をかくことができた。次に「1個50円のトマト x 個と350円の小玉スイカひとつ買ったときの合計代金 y 円」という状況での x と y の対応を考えた。「1あたり量」と「もともとある量」はそれぞれ変化の割合と $x = 0$ のときの y の値に繋がっていくので強調した。1あたり量ともともとある量

は動的なものや静的なものというイメージを持たせるために赤系と青系の色でチェックした。また生徒たちに「比例のグラフは原点を通る」ことが強く印象づけられていたため、 $x=0$ のときの y の値を計算してその点をチェックさせ、1次関数では原点を上下に移動した点を通ることを押さえた。次に x が1増加するときの y の変化量を調べ、それを根拠にして y 軸上の点から右に○進むと上下に○進んでたどりついた点を通ることを押さえた。

発展コースの生徒たちは、基本的な計算力はある、まじめに学習に取り組む生徒が多いが、自ら思考を深めていこうという貪欲さを持つ生徒は少ない。思考力を鍛えるためには、意欲を喚起させる仕掛けを、課題提示や学習過程に必要とする。

(2) 教材観

グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めることができるようになることができれば、傾きは微分に、切片は放物線の頂点の移動に、と高校数学につながっていく。

自然現象や社会現象などを考える際には、その現象の中に潜む関係や法則をとらえて、数学的に考察し処理することが有効である。1次関数の学習は、そのような考察能力の基盤となっており、1次関数の特徴や数的処理の方法を学習した後は、日常生活の中にある現象を取り上げることで、数学が身近であり、数学を使うことの良さを伝えることが有効にできる教材である。

(3) 指導方法

1次関数の特徴を既習の比例と比較しながら確認することで、理解をより深めることができると考え、表やグラフ、式など様々な場面で共通する点、異なる点など意識をさせたい。そのために既習事項を活かせる課題を工夫するが、そのためにも既習事項の確認をこまめに有効に行うことを心がける。

1次関数の利用の場面では、より身近な題材や数学が利用されていてよかったと気づく題材などを取り上げ、課題解決に至るための数学的な根拠などを「書く」「話す」「聞く」場面を設定したい。その際にそれぞれの行動のよさをスモールステップで評価するよう心がける。

5. 単元の指導・評価計画 (総時数 19 時間)

次	小単元名及び 目標	主な学習活動		評価規準		関 心	思 考	技 能	知 識
		標準・基礎コース	発展コース	標準・基礎コース	発展コース				
一 (2)	「1次関数」 ・1次関数の意味を理解する。 ・1次関数の事象の関係を式に表すことができる。	・事象のなかから1次関数を見だし、式に表す。	・具体的な事象から1次関数の関係としてとらえられる2つの数量を見だし、その関係を式で表そうとしている。	○					
		・1次関数の意味を学ぶ。	・1次関数の意味を理解している。					○	
		・1次関数の関係を式で表す。	・1次関数の関係を式で表すことができる。				○		
二 (1)	「1次関数の値の変化」 ・変化の割合の意味を理解し、それを求めることができる。	・1次関数の変化の割合を求める。	・1次関数の変化の割合を求めることができる。 ・変化の割合をもとに、 y の増加量を求めることができる。					○	
		・変化の割合の意味を学ぶ。 ・1次関数では変化の割合は一定で、 a に等しいことを学ぶ。	・変化の割合の意味を理解している。 ・1次関数では変化の割合は一定で、 a に等しいことを理解している。					○	
三 (5)	「1次関数のグラフ」 ・1次関数のグラフの切片と傾き の意を理解し、1次関数	・1次関数のグラフを比例のグラフの関係を調べる。 ・1次関数の a や b とグラフの特徴との関係を学ぶ。	・1次関数のグラフの特徴を、比例のグラフと比較して考察することができる。 ・1次関数の a や b の意味を1次関数のグラフの特徴と関連づけて考えることができる。			○			

	のグラフをかきことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの切片と傾きについて学ぶ。 ・1次関数のグラフを切片と傾きからかくことができる。 ・1次関数の変域の対応を、グラフをもとに調べる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの切片と傾きの意味を理解している。 ・1次関数のグラフを切片と傾きからかくことができる。 ・1次関数のグラフを用いてXの変域に対応するYの変域を求めることができる。 				○	
四 (1)	「1次関数を求めること」 ・あたえられた条件から1次関数を求めることができる。	・あたえられた条件から1次関数を求める。	・グラフの切片や傾きをよみとって、1次関数を求めたり、あたえられた条件から1次関数を求めたりすることができる。				○	
			・式を求めようとしている。	・式が決定するための条件を考えたり、式を求めたりしようとしている。	○			
			・あたえられた条件をみたく1次関数を求めることができる。					○
五 (2)	「1次関数とみなすこと」 ・具体的な事象を1次関数とみなし、未知の状況を予測し、問題を解決することができる。 ・具体的な事象を1次関数とみなす根拠や、予測の根拠を説明することができる。	・具体的な事象を1次関数とみなして考察し未知の状況を予測する。 ・具体的な事象を1次関数とみなす根拠や、予測の根拠を説明する。	・具体的な事象を1次関数とみなし、その事象の考察に関数の見方や考え方を利用して考察し、未知の状況を予測することができる。 ・具体的な事象を1次関数とみなす根拠や、予測の根拠を説明することができる。				○	
		・身のまわりの事象を1次関数とみなし、表・式・グラフを用いて表現しそれを利用して問題解決する。	・身のまわりの事象を1次関数とみなし、表・式・グラフを用いて表現しそれを利用して問題解決をすることができる。					○
		基本の問題・演習	・1次関数の知識をもとにして問題解決をすることができる。					○
六 (3)	「2元1次方程式のグラフ」 ・2元1次方程式と1次関数の関係を見だし、理解することができる。	・2元1次方程式と1次関数のグラフの関係を学ぶ。 ・2元1次方程式のグラフをかき。 ・ $yx=k$ や $xx=h$ のグラフの意味を学びそれらのグラフをかき。	・2元1次方程式のグラフを、式を変形してかくことができる。 ・2元1次方程式のグラフを、グラフが通る2点の座標を求めてかくことができる。 ・2元1次方程式 $ax+by=c$ で、 a や b が0のときのグラフをかきことができる。				○	
		・定点と動点がつくる図形の面積の変化のようすを、式やグラフで表す。	・場合分けした変域にしたがって、定点と動点がつくる図形の面積を表す式をつくり、グラフをかきことができる。					○
七 (1)	「1次関数のグラフの利用」 ・1次関数のグラフを利用して未知の状況を予測し、判断することができる。	・事象の変化のようすをグラフに表し、グラフを利用して未知の状況を予測し、判断する。 ・グラフから問題解決に必要なことをよみとり問題を解決する。	・事象の変化のようすをグラフに表し、グラフを利用して未知の状況を予測し判断することができる。 ・グラフから問題解決に必要なことをよみとり、問題を解決することができる。				○	
八 (3)	「連立方程式とグラフ」 ・連立方程式の解を2元1次方程式のグラフの交点の座標を利用して求めることができる。 ・2直線の交点の座標を、連立方程式を解いて求めることができる。	・連立方程式の解をグラフから求める。	・連立方程式の解を、2元1次方程式のグラフの交点の座標を利用して求めることができる。				○	
		・2直線の交点の座標を、連立方程式を解いて求める。	・2直線の交点の座標を、連立方程式を解いて求めることができる。					○
		基本の問題・章の問題A	・1次関数の知識をもとにして、問題解決をすることができる。					○

6. 本時の学習 (1/2)

【3組標準・基礎コース】

(1) 小単元 (題目等) 名

1次関数を求めること

(2) ねらい

グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めたり、あたえられた条件から1次関数を求めたりすることができる。【数学的な技能】

(3) 準備・資料等

ワークシート、グラフ黒板

(4) 学習の展開

時間	生徒の学習活動	教師の指導・留意点 (人権教育上の配慮)	評価規準・評価方法										
導入 (10)	○式からグラフをかくことを復習する。 $y=2x+1$ のグラフをかく。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">x</td> <td style="padding: 2px 5px;">-1</td> <td style="padding: 2px 5px;">0</td> <td style="padding: 2px 5px;">1</td> <td style="padding: 2px 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">y</td> <td style="padding: 2px 5px;">-1</td> <td style="padding: 2px 5px;">1</td> <td style="padding: 2px 5px;">3</td> <td style="padding: 2px 5px;"></td> </tr> </table>	x	-1	0	1		y	-1	1	3		○どこに注目したらいいかな、と問いかける。 ・切片または $x=0$ のときの y の値と傾きまたは x の増加量と y の増加量が、対応表やグラフのどこにあらわれるかを確認する。	
x	-1	0	1										
y	-1	1	3										
展開 (35) 14	○展開1 グラフから式をよみとりましょう。 (1) $y=3x-2$ (2) $y=-\frac{2}{3}x+1$	・簡潔に指示し、意味が分かりにくいところがないか確認する。 ・課題のグラフの目盛りを大きくし、目からの情報のストレスを減らすことにより意欲を高める。 ・直線の式を求めるために、どこに注目したらよいか、何を求めたらよいかを確認する。注目すべき格子点にマグネットを置かせる。 ・(2)は右下がりでしかも傾きが分数であるので慎重に求めさせる。											
	1次関数のグラフがいくつかあります。もとの式を求めることはできるでしょうか？												
3	○展開2 ・まだ少しグラフがでてきました。虫にくわれてしまったようなものもあります。もとの式を求めることはできるでしょうか？ ・困ることは何？分かることは何？他に何を知りたいですか？ (A) $y=-\frac{1}{2}x-3$	・切片が読み取れない。 ・切片を求めるためにどうしたらよいかを考えるよう、助言する。											

<p>10</p> <p>8</p>	<p>(B) $y = \frac{4}{3}x - 1$</p> <p>(C) $y = -\frac{3}{2}x + \frac{5}{2}$</p> <p>(D) $y = 2x + 10$</p> <p>◆課題を選びましょう。(視点①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つ以上選びましょう ・自分がどう考えたかをワークシートにかきましょう。 <p>○発表しあいましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで集まりましょう。 ・自分のレポートについて、質問を受けつけましょう。 <p>◆発表者に対してコメントや拍手をしましょう。(視点③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを集めてください。 	<p>◆課題を自分で選ばせる。(視点①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まるグループは列などわかりやすいものをつくる。 <p>◆さまざまな考え方に対して、優劣をつけるような雰囲気を作らない。(視点③)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めたり、あたえられた条件から1次関数を求めたりすることができる。 【数学的な技能】 <p>ノート記述・発言</p>						
<p>まとめ</p> <p>(5)</p>	<p>○今日の学習を振り返り、次時を予告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線の式を求めるためにはグラフから傾きや切片を読み取り、$y = ax + b$のaとbを求めていけばよいことが分かりました。 ・次回は表から式を求めます。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">x</td> <td style="padding: 2px 5px;">-4</td> <td style="padding: 2px 5px;">8</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">y</td> <td style="padding: 2px 5px;">-1</td> <td style="padding: 2px 5px;">-4</td> </tr> </table>	x	-4	8	y	-1	-4	<ul style="list-style-type: none"> ・aは右へいくつ進んで上下にいくつ進むこと、言い換えるとxの増加量とyの増加量に関する、切片はグラフがy軸で切られた場所、言い換えるとx=0のときのyの値に関することを再確認する。 	
x	-4	8							
y	-1	-4							

(5) 板書計画

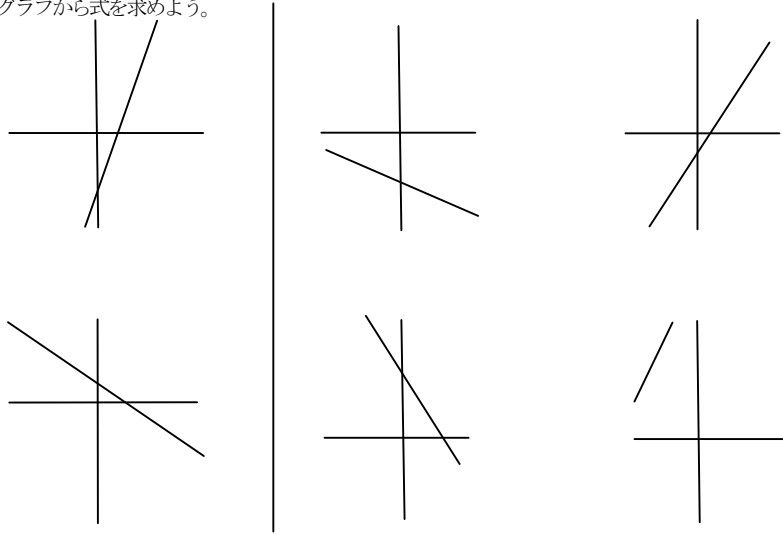
復 $y = 2x + 1$

傾き 切片

x	-1	0	1
y	-1	1	3

+2 +2

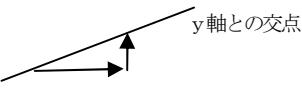
グラフから式を求めよう。



まとめ

$y = ax + b$

傾き 切片



y軸との交点

6. 本時の学習 (1/2)

【発展コース】

(1) 小単元 (題目等) 名

1次関数を求めること

(2) ねらい

・グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めたり、与えられた条件から1次関数を求めたりすることができる。【数学的な技能】

(3) 準備・資料等

グラフ黒板 ワークシート

(4) 学習の展開

時間	生徒の学習活動	教師の指導・留意点 (人権教育上の配慮)	評価規準・評価方法
導入 3分	(復) 1次関数のグラフを切片と傾きをもとに書く。	切片と傾きの意味を思い出させる。	
展開 45分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">直線の式を求めてみよう。</div> <p>式の形は、$y = ax + b$である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切片bと傾きaの値がわかればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何がわかればよいか確認する。 	
(15)	(1) 切片と傾きがグラフから読み取れる場合	・傾きがなぜその値になるのか説明させる。	
	(2) 切片と1点の座標がわかっている場合	・傾きは変化の割合と同じであることを確認する。	
	・傾きの求め方を考える。		
(20)	(3) 2点の座標がわかっている場合	・グラフ上から傾きと切片どちらが求められそうかヒントを出す。	
	どうやって求めることができるか考える。	・どうしたら切片を求められるか個人思考のあと周囲と確認の時間を取る。	
	・傾き (変化の割合) を求める。	・グラフ上をたどる場合だと値がはっきりしない場合があるが、代入すれば計算によって切片が求められることから、数学のよさに気づかせる。	
	・切片の求め方を考える。		
	グラフ上をたどる		
	式に代入する		
(10)	練習問題をする	◆間違いを指摘する際の言葉に気をつけるよう確認する。	・条件を利用して求めたい値を求め、1次関数の式をつくることことができる。【数学的な技能】
まとめ 2分	◆ペアで答え合わせをする。 1次関数の式は、傾きと切片の値を求めることができれば作ることができる。		(ワークシート・観察)

(5) 板書計画

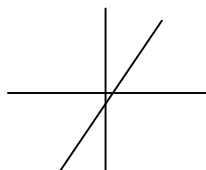
1次関数のグラフ→式 $y = ax + b$

直線の式を求めてみよう・・・傾き a と切片 b の値を求めれば作れる。

(復)

(1) (目盛のある座標面上の直線)

(3) (2点の座標がわかっている直線)



(2) (切片と1点の座標がわかっている直線)

傾き = 変化の割合

y の増加量

x の増加量

6. 本時の学習 (1/2)

【4組標準・基礎コース】

(1) 小単元 (題目等) 名

1次関数を求めること (1/2)

(2) ねらい

グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めたり, あたえられた条件から1次関数を求めたりすることができる【数学的な技能】

(3) 準備・資料等

・ワークシート

(4) 学習の展開

	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準・評価方法												
導入 (10)	<p>・既習事項の確認</p> <p>式 $y = 2x + 1$</p> <p>表</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>x</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>グラフ</p>	x	0	1	2	3	4	y	1	3	5	7	9	<p>・切片と傾きが1次関数のグラフにおいて何を表しているのかを確認する。</p>	
x	0	1	2	3	4										
y	1	3	5	7	9										
展開 (30)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グラフから1次関数の式を求めよう。 </div>														
10	<p>・グラフから切片と傾きを調べる。</p> <p>$y = 3x + 1$</p> <p>$y = 2x + 4$</p> <p>$y = \frac{1}{3}x + 2$</p>	<p>・グラフの切片のところに点をつけさせ, 確認させる。</p>													
10	<p>・個人で適用問題を解く。</p> <p>・できた生徒が教え手となり, 困っている生徒に教えて回る。</p>	<p>◆間違っていることを否定しないよう伝える。</p> <p>◆全員が理解するように教え合いするよう声かけする。</p>	<p>グラフの切片や傾きをよみとって1次関数を求めたり, あたえられた条件から1次関数を求めたりすることができる【数学的な技能】(観察・発表)</p>												
10	<p>・なぜ1次関数の式を求めることができるかをまとめる。</p>	<p>・キーワードカードを提示し, まとめられるよう支援する。</p>													

まとめ (10)	・切片が読みとれないときを考 える。		
-------------	-----------------------	--	--

(5) 板書計画

式 $y = 2x + 1$

表

x	0	1	2	3
y	1	3	5	7

グラフ

グラフから1次関数を求めよう

$y = 3x + 1$

傾き $\times \frac{\text{たて}}{\text{よこ}}$

切片が隠れているグラフ

$y = \frac{1}{3}x + 2$

切片が分数のグラフ

第3学年3組 道徳学習指導案

日 時 平成26年9月10日
指導場所 3年3組教室
指 導 者 中村 丈朗

1. 主題名 3－(1) 生命尊重

2. ねらい

- ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする気持ちを育てる

3. 資料名 ドナーカード（「中学道徳3 心つないで」 教育出版）

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

現代は医療技術の発達に伴い、人間の寿命が延びている。しかし、昨今は「ムカついたから」、「誰でも良かった」などという動機での殺人事件も増えており、命に対する考えが希薄になっている。中学生では、漫画やゲームの中で人を傷つける場面を目にする機会が増え、命を軽く扱ったり、命の尊さに触れる機会が少なくなったりしている。

そこで、臓器移植に関連するドナーカードをもとに、「命」を重く受け止め、その尊さを自覚し、自他の生命を尊重しようとする気持ちを育成するのに適した教材である。

(2) 生徒について

中学生は「生命の大切さ」がなかなか実感しにくい年代であり、実際に死をイメージすることはなかなか困難である。学級についても、似たような様子であり、特に臓器提供においても考えづらい。このような状況の中で、「臓器移植」は具体的で相反する二つの立場が存在することが容易に理解できる場面設定である。複数の価値観を検討する中で、背後に共通して流れている生命尊重の精神の重みを感じ取らせていきたい。

(3) 資料について

現代は医療技術の発達に伴い、人間の寿命が延びている。しかし、昨今は「ムカついたから」、「誰でも良かった」などという動機での殺人事件も増えており、命に対する考えが希薄になっている。中学生では、漫画やゲームの中で人を傷つける場面を目にする機会が増え、命を軽く扱ったり、命の尊さに触れる機会が少なくなったりしている。そこで、臓器移植に関連するドナーカードをもとに、「命」を重く受け止め、その尊さを自覚し、自他の生命を尊重しようとする気持ちを育成するのに適した教材である。ここでは「臓器移植」について、今の自分の考えを理由と合わせて、お互いに意見交流させながら命の尊さを考えさせる。

5. 研究主題との関連（人権教育の視点）

生徒につけさせたい力

- ①将来への展望を持ち、意欲的・主体的に学習に取り組む力
- ②自己を肯定的にとらえ、自らに責任を持って行動する力
- ③互いの違いを認め、尊重し合い、仲間のために行動できる力

互いの違いを認めるため、グループで意見交流を行い、お互いの考えをしっかりと聴く時間を設定する。

6. 準備

- ・ドナーカード、ワークシート

7. 展開

段階 時間	学 習 活 動	発問等と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>○臓器提供について知る。 ・ドナーカードの紹介をする</p>	<p>○この絵は何か知っていますか ・ドナーカード ○どこで手に入れることができますか。 ・コンビニ・郵便局・警察署 ○提供できる臓器は何ですか。 眼球・腎臓・小腸・心臓・肺・脾臓・肝臓 ○いくつかから臓器提供できますか。 ・0歳から ・20歳から</p>	
展開 (35分)	<p>○自分の考えを書く。</p> <p>◆グループで意見交流をする。(4～5人) ○発表する</p> <p>○資料を読む</p> <p>○自分の考えを書く</p> <p>○発表する</p>	<p>◎自分なら次のどれを選びますか。また、なぜそれを選んだのか理由も書きなさい。 ①脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも提供する ・人の役に立ちたい ②心臓が停止した死後に限り提供する ・脳死では、まだ死んでいないと思うから ③臓器を提供しない ・親からもらった大事な体だから</p> <p>○脳死とはどういう状態ですか。 ・脳幹の機能が失われた状態 ・植物状態</p> <p>○自分が臓器移植しないと助からないと分かったら、あなたは臓器提供を望みますか。また、その理由も書きなさい。 ・助かりたいから、もらいたい ・運命だと受け入れたいから、もらわない</p>	<p>・①～③を選ぶ前に脳死とはどのような状態なのか押さえる。 ◆発言しやすい雰囲気を作る ◆異なる意見に対し、否定的発言をしないよう確認する。</p> <p>◆臓器提供への考えが偏らないように、提供する人と提供しない人の資料を紹介する。</p>
終末 (5分)	<p>・授業の感想を書く。</p>	<p>○今日の授業を通して感じたことや思ったことを書く。</p>	

あすなろ2学級 生活単元科学習指導案

日 時 平成26年9月10日
指導場所 あすなろ2教室
指 導 者 森口 美緒

1. 単元(題材)名

カレンダーを作ろう

2. 単元(題材)の目標

- ・定規を利用し、正確な枠を作る。【技能】
- ・季節に合った絵を選び、描くことができる。【思考・判断・表現】
- ・カレンダーに関心を持ち、曜日や祝日や行事などを把握する。【関心・意欲・態度】
- ・暦の用語が分かったり、簡単な日数計算ができる。【知識・理解】

3. 研究主題との関連(人権教育の視点)

生徒につけさせたい力

- ①将来への展望を持ち、意欲的・主体的に学習に取り組む力
- ②自己を肯定的にとらえ、自らに責任を持って行動する力
- ③互いの違いを認め、尊重し合い、仲間のために行動できる力

本単元は①と③を意識して取り組みたい。①では日常生活のなかでカレンダーを有効に使い、見通しを持って自立した生活が送れるように支援していきたい。③ではクラスメイトの発表や意見を聞いたり、作品を評価し合い、一人ひとり頑張りを認め合う環境づくりを目指したい。

4. 指導に当たって

(1) 生徒の実態

本学級は1年生男子2人、2年生男子1人の3人で構成される。クラスは明るく穏やかであるが、個性の強い生徒が多く、それぞれ独自で行動することが多い。学習に対しては意欲的に取り組んでいるが集中が続かず、声かけがないと進まない生徒が殆どである。そのため、小休憩をはさんだり、授業の中で目標を決めて集中する時間を定めて取り組んでいる。暦に関しては、曜日や日にちに関心を持つ生徒が少なく、学校行事や祝日なども意識しないで過ごしている状態である。また、興味・学力・技能に差があり、3人が同じ教材で同時に学習することは難しく、個に合った支援が必要である。

(2) 教材観

カレンダーは日常生活の中で活用することが多いなか、曜日、日にち、行事等に関心が薄い生徒の実態をふまえ、カレンダー作りを通して見通しを持って行動する力を育てていきたい。カレンダーの枠作りでは、正確に目盛りを読んだり、九九を利用して長さを測ったりなどの、数学的な取り組みができる。また、季節に合った絵をイメージし、自由な発想で描いたり、曜日や日にちを事前に学習した英語や漢字で書くことができたりと、様々な教科を取り入れることができ、総合的な学習ができる単元である。

(3) 指導方法

各時間で個のレベルに応じた作業内容で取り組み、「できた」という達成感を意識づけたい。特に個別の支援が必要な枠作りでは、自分でできる作業(絵を描く)と、枠作りの作業を交代で行っていきたい。また、制作をして終わりではなく、振り返りの時間で学習成果を共有し、お互いの頑張りを認め合うようにしたい。今後は教室に掲示するなどして、自らカレンダーを見て主体的に行動ができたり、自分の予定を書き入れたり、日常生活の中でカレンダーを有効に活用できるように支援していきたい。

5. 単元の指導・評価計画 (総時数 3 時間)

次	小单元名及び目標	主な学習活動	評価規準	関 心	思 考	技 能	知 識
一 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠を丁寧に書く。 ・ 季節に合った絵を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定規で目印を付け、真っ直ぐな線を引く。 ・ 10月にふさわしい絵をイメージして書いたり、書き写したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく定規を使っている。 ・ きれいな線が引けている。 ・ 季節に合った絵を描いている。 			○	
二 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日にちや曜日を工夫して書く。 ・ 簡単な日数計算をする。 ・ 暦の用語を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日や月を事前に学習した英語や漢字で書く。 ・ ○日後や○日前、○週間後など簡単な日数計算をする。 ・ 祝日の名前や去年や来年などの意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日を英語や漢字で書けている。 ・ 暦の用語に慣れ、簡単な日数(月数)の計算ができる。 	○			○ ○

6. 本時の学習 (1 / 3)

(1) 小单元 (題目等) 名

カレンダーの枠を描こう。

(2) ねらい

	生徒の実態	本時のねらい	個別の指導計画との関連
A (男) 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2と5のかけ算を学習している。 ・ 細かい作業が苦手である。 ・ 絵を描くことが好きで、四六時中書いている。図鑑を見て書き写すことができる。 ・ 日にちや曜日にあまり関心がない。 ・ 関心がないことには集中が長続きしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 cm、5 cmずつ印を付けることができる。 【知識・理解】 ・ 定規に沿ってきれいな線を引く。 【技能】 ・ 季節に合った絵を描き写す。 【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2と5の段の乗法九九を知り、使える。 ・ 目印(2つの点)に定規を合わせることができる。 ・ 四季の変化に関心をもつ。 ・ 日にちや行事などに関心を持つ。
B (男) 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何においても意欲的で、指示を聞いて理解・行動ができる。 ・ 細かいことが気になったり、自信がなかったりして、作業が進まず支援が必要な時がある。 ・ 絵をイメージして描くことは苦手だが、書き写す作業はとても上手である。 ・ 暦はしっかり理解しており、カレンダーも日頃から活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定規を利用して正確な枠を作る。 【技能】 ・ 季節に合った絵をイメージして描く。 【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定規を正確に使う。 ・ 四季の変化に関心をもつ。
C (男) 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい作業は得意だが、目印をつける場所がずれることがある。 ・ 話を聞く姿勢になるまでに時間がかかる。 ・ 絵を描くことが得意で、イメージして描くことも得意である。 ・ 日にちや曜日にあまり関心がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な印をつける。 【技能】 ・ 季節に合った絵をイメージして描く。 【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定規を正確に使う。 ・ 説明や指示、意見を最後まで聞く。 ・ 四季の変化に関心をもつ。 ・ 日にちや行事などに関心を持つ。

(3) 準備・資料等

画用紙、40cm定規、見本のカレンダー、季節の絵、フラッシュカード、色鉛筆

(4) 学習の展開

時間	生徒の学習活動	教師の指導・留意点 (人権教育上の配慮)			評価基準・評価方法
		A	B	C	
導入 10	①カレンダー作りの見通しをもつ。 ②本時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> どんな種類のカレンダーを知っているか確認する。 見通しがもちやすいようにカレンダーの作り方をフラッシュカードで掲示する。 学習内容を活かしたカレンダーになるように話をする。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">10月のカレンダーを作ろう</div>			
展開 27	③ BC→枠を作る。 A →絵を描く。 (支援員) ④ BC→絵を描く。 (支援員) A →枠を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 外枠が書かれた用紙を準備する。 秋(10月)にふさわしい絵を描くように声かけする。 分からない場合は準備した絵の中から選んで描くように声かけする。(支援員) 縦は2の段、横は5の段を使って目印を付けるように声かけする。 目印は小さく書き、定規を使い、はみ出さないで丁寧に書くように声かけする。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦22cm、横35cmの枠であることを説明する。 縦、横のそれぞれのマスの幅を考える。 ある程度のズレは気にしないよう声かけする。 分からない場合は準備した絵の中から選んで描くように声かけする。(支援員) 	<ul style="list-style-type: none"> 1週間は何日あるか確認する。 目印の付け方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合った絵を選び書いている。(A) 【思考・判断・表現】(作品) 定規を利用し正確な枠を作る。(B) 正確な目印を付ける。(C) 【技能】(作品) 2と5の段の乗法九九が使える。(A) 【知識・理解】(観察) 定規を利用して正確な枠を作る。(A) 【技能】(作品) 季節に合った絵を選び書いている。(B)(C) 【思考・判断・表現】
終末 10 3	⑤振り返り ・作品の評価をする。 ⑥次時の内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆お互いの作品を発表する場を設け、今日の頑張りを認め合う。 枠作りで工夫したことや頑張ったこと、絵の評価が発表できているか確認する。 			